認証・登録番号　0000007

環境活動レポート

2014 年 4 月 15 日

株式会社アカサカテック

承　認	確　認	作　成
2014 年 4 月 15 日	2014 年 4 月 15 日	2014 年 4 月 15 日
社　長	環境管理責任者	推進室リーダー

1. 組織の概要

1) 事業所名及び代表者氏名

【会社名】　株式会社アカサカテック
【代表者名】　代表取締役社長　加瀬　順一

2) 所在地

【住所】　神奈川県横浜市金沢区白帆４－２ マリーナプラザ 3f

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

【責任者】　総務グループ　グループリーダー　海老原あかね
【担当者】　総務グループ　グループリーダー　海老原あかね
【連絡先】　電話　045－774－3570
FAX　045－774－3571
Emale：akt-info@akasakatec.com
【環境レポート公表 URL】　http://www.akasakatec.com/infomation/ea3.html

4) 事業活動の内容

各種システムソフトウェア、ハードウェアの設計･開発･製造･販売･保守

5) 事業の規模

活動規模	単　位	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
売上高	百万円	349	397	428	512
従業員数	人	16	16	17	20
床面積	㎡	512	512	512	900

＊当社の環境活動年度は前年４月より本年３月までをいう。
（例：2013 年度とは 2013 年４月より 2014 年３月まで）

6) 業務内容と環境負荷項目

当社の業務内容は，ソフト開発及び情報通信で，環境負荷として，主に考えうるものは，二酸化炭素排出量、コピー用紙使用量、廃棄物排出量が該当します。また、2013 年４月の社屋移転に伴い以前は入居ビル管理者が管理しているため，使用量の数値的な把握ができず、目標が定められず節水の励行にとどまっていた「水使用量」を新たに該当項目として追加しました。
環境目標としてデータを記載していない環境負荷項目と理由は次の通りです。

【化学物質】
・当社は，化学物質の使用はありません。

【原材料】
・当社は，生産活動をしておらず，原材料の使用はありません。

【包装材料】
・当社は，商品の包装紙を使用していますが，包装紙はその他紙類として管理しています。

【水質汚濁物質】
・当社は，生活用水以外の水の使用はなく，生産活動における排水は出ません。

2. 対象範囲

1) 認証・登録の範囲

1.2)に所在する当社の全ての組織　（図 1.業務組織図参照）

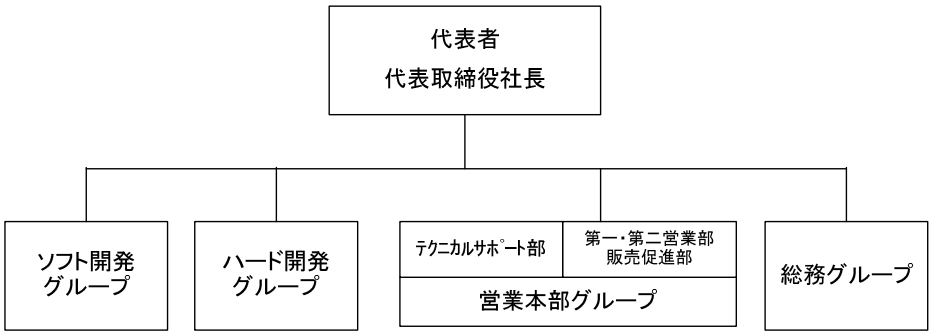
2) 認証・登録の活動範囲

「各種システムソフトウェア、ハードウェアの設計･開発･製造･販売･保守」

3) 本環境活動レポートの対象期間及び発行日

対象期間：　2013 年４月１日～2014 年３月 31 日
発 行 日：　2014 年４月１日

図 1. 業務組織図



3. 環境方針

企 業 理 念

「道に食あり 食に道なし」
技術の研鑽、道を究める

環 境 方 針

株式会社アカサカテックは，事業活動を遂行するにあたり、
地域性及び環境への関連を考慮し，
次の環境方針を定め環境保全に対する自主的な取組を展開します。

1． 環境活動評価プログラムに積極的に参加し，これを運用･維持します。
2． 事業活動による直接及び間接的な環境への影響を的確にとらえ，精査し、
環境保全活動の目標を定め、これを実行します。
① 電力及び車両燃料の使用量の削減により、CO_2 排出抑制に努めます。
② 紙使用量の削減、廃棄物の分別・リサイクルにより、廃棄物排出抑制に努めます。
③ 節水に努めます。
④ グリーン製品の積極的な購入を図ります。
⑤ 環境へのプラス影響を促進するシステム･商品の開発を積極的に進めます。
3． 内部監査を実施し、継続的な改善、及び環境管理の維持向上に努めます。
4． 環境に関する法規制及びその他の同意する要求事項を遵守します。
5． 本「環境方針」を全社内に周知するとともに、社内教育により全社員を啓発し、
一社会人としての環境保全意識の向上を図ります。

2007 年 12 月 1 日 改定
2001 年 7 月 11 日 制定
株式会社アカサカテック
代表取締役 加瀬 順一

4.環境目標

(1) 環境負荷項目の削減目標

当社は、2005 年度までの活動終了後、2005 年度の実績を基準値として 2006 年度以降 5 年間の目標を策定し活動してきました。5 年間の活動が終了し、負荷項目によっては不満足な結果となる年度もありましたが、ある程度満足のできる実績を残すことができました。この 5 年間の実績値を年平均し、これらを新たな基準値として、新たな 5 年間の「二酸化炭素排出量」、「コピー用紙使用量」、「廃棄物排出量」、「新聞再生廃棄量」、「ダンボール再生廃棄量」及び「グリーン製品購入率」の低減目標を下記のとおり策定しました。また、2013 年 4 月の社屋移転に伴い、以前は入居ビル管理者が管理しているため，使用量の数値的な把握ができず、目標が定められず節水の励行にとどまっていた「水使用量」を新たに該当項目として追加しましたが、今年度はデータの収集のみ行い、目標設定及び環境活動は来年度から実施することとしました。

負荷項目		基準値	目標	目標	目標	目標	目標
		5 年実績 年平均値	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
二酸化炭素排出量	低減率	-	0.10%	0.20%	0.30%	0.40%	0.50%
	kg-CO_2/年	32,777	32,744	32,711	32,679	32,646	32,613
コピー用紙使用量	低減率	-	0.10%	0.20%	0.30%	0.40%	0.50%
	kg/年	384	384	383	383	382	382
廃棄物排出量	低減率	-	0.10%	0.20%	0.30%	0.40%	0.50%
	kg/年	1482	1,481	1,479	1,478	1,476	1,475
新聞再生廃棄量	低減率	-	0.10%	0.10%	0.10%	0.10%	0.10%
	kg/年	246	245	245	245	245	245
ダンボール再生廃棄量	低減率	-	0.10%	0.10%	0.10%	0.10%	0.10%
	kg/年	213	213	213	213	213	213
グリーン製品購入率	増減値	-	75%	75%	75%	75%	75%
	%	79.64	75.00	75.00	75.00	75.00	75.00

(2) 環境にプラスの影響を与える活動目標　（環境配慮型製品の開発・販売）

当社は、2001 年度より EA21 のガイドラインに準拠した環境活動を行ってきました。主な活動は「環境負荷項目の削減」であり、これまである程度の実績を残してきています。しかしながら、近年においては削減率の伸びが活動開始時期に比べ緩やかになってきており、また、数年後には限界値に達すると考えられます。このような状況を踏まえ、2007 年度よりプラスの環境側面の活動を開始しました。

「環境にプラスの影響を与える活動」として「環境配慮型製品の開発・販売」を開始、2008 年度より目標を設定し、推進してまいりました。これは、システム開発及び商品化にあたり、当該商品の持つ機能が、「社会の環境保全活動に対し間接的に、どのくらい貢献をもたらすか」を設計条件の一つとして位置付けて開発及び商品化し、当社の製品として販売するものです。

目標と商品（システム）の概要は下記の通りです。

製品名（システム名）	年度	基準値 (2008)	2011	2012	2013	2014	2015
NetBreeze (Honsen.net)	目標値 (通信ﾊﾟｹｯﾄ数：単位 ｷﾛﾊﾟｹｯﾄ)	増加率	225% 増	300% 増	375% 増	450% 増	525% 増
		142	460,000	570,000	675,000	780,000	890,000

【商品・システムの概要】

本システムは、船陸間（内航貨物船と事務所の間）のインターネット通信を、陸上の携帯端末インフラを利用した高速で安価な通信料金で実現したもので、従来は書類のファックス通信に頼っていた船陸間の通信を、インターネット網（E メール）通信（パケット通信）に切り替えることにより船側及び事務所側両者のペーパーレスを促進し、紙の使用量の大幅な削減が可能になるシステムです。

内航船向け船舶業務支援ＡＳＰサービス

Honsen.net
ここから始まる。
船陸間のコミュニケーション

船舶の IT 化を支援。
タッチパネルで簡単操作。
26 種類の気象・海象データを用意
本船の状況をカンタン報告
インターネット電話
帳票類もペーパーレス管理

内航船向け高速インターネット通信機

下り最大通信速度 2.4Mbps
船内高速インターネット環境を提供
定額料金でパケットフリー
船舶用コンテンツサービス
「*Honsen.net*」に対応
タッチパネル式液晶モニタ
自船 GPS 位置送信機能

Honsen.net　&　NetBreeze

しかしながら、2013 年 4 月における本システムのバージョンアップに伴うシステム変更により定量的な活動結果の収集が不可能となったため、本活動は 2013 年 9 月をもって終了し、新たな「環境配慮型製品の開発・販売」を開始することとしました。新システムにつきましては現在開発途上であり、完成次第目標を設定し、次の「環境にプラスの影響を与える活動」として活動を開始する予定です。

5. 環境活動計画

5.1 環境保全に向けた具体的な取組内容

当社の主要な環境保全に向けた具体的な取組内容を以下の通りです。活動計画の詳細は別紙活動計画をご参照ください。

(1) 数値目標を達成するための取組

① 二酸化炭素排出量

・冷暖房温度管理、夏 28℃、冬 23℃の徹底
・無人スペースの照明消灯の推進
・昼休み時間の全室消灯の推進
・退社時のパソコンモニター電源 Off の習慣付け
・コピー機の省エネモードの利用促進
・効率のよい運転の促進
・アイドリングゼロ、急発信ゼロ、急ブレーキゼロ、経済速度での運転の励行

② コピー用紙使用量
・社内文書裏紙利用の推進
・書類の PDF 化、社内電子閲覧の奨励
・グループウェア活用によるペーパーレス化
③ 廃棄物排出量
・ダンボール、新聞紙の梱包材としての再利用の促進
・紙類の分別回収の促進

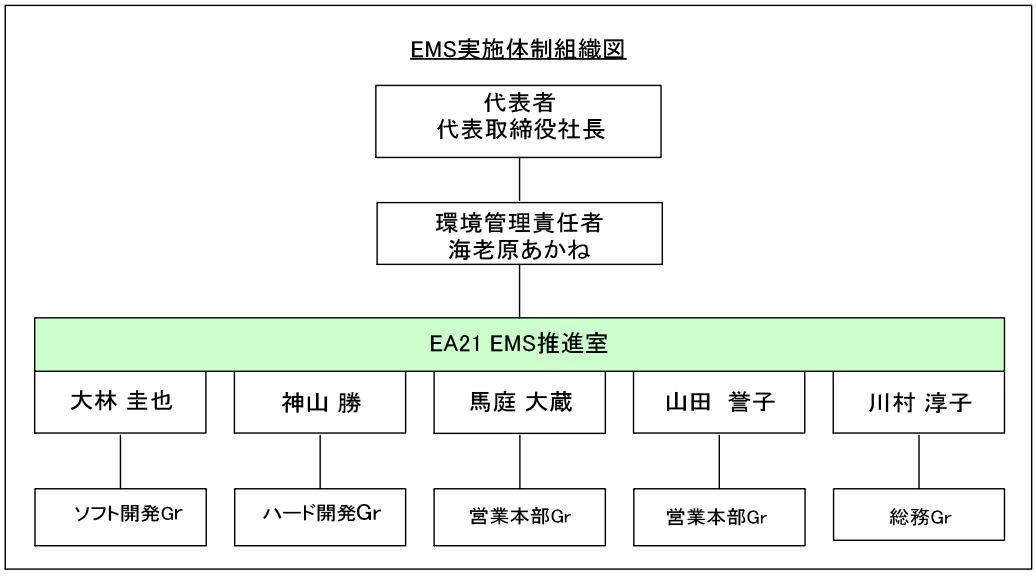
(2) その他の取組
① グリーン購入への取組
・コピー用紙の全面再生紙化
・エコマーク文房具購入比率の拡大
・再生紙利用の段ボール・エコ材使用の梱包材利用促進
② 社内啓発活動の取組
・ＥＡ21 推進ワーキンググループの結成
・半期ごとの活動報告会とクロスチェックの励行
・四半期ごとの報告・勉強会の開催
③ 環境にプラスの影響を与える活動　（環境配慮型製品の開発・販売）
・陸上における環境保全活動に間接的に貢献するシステムの開発及び商品販売
・「NetBreeze」の販売と利用の促進

5.2 環境経営システムの運用体制

(1) EA21 推進室スタッフ

氏名	所属	役割
海老原あかね	総務グループ　リーダー	環境管理責任者･推進室リーダー
神山　淳子	総務グループ	推進室スタッフ
山田　誉子	営業本部グループ	推進室スタッフ
馬庭　大蔵	営業本部グループ	推進室スタッフ
神山　勝	ハード開発グループ	推進室スタッフ
大林　圭也	ソフト開発グループ	推進室スタッフ

(2) EA21（EMS）実施体制組織図



6. 環境目標の実績

(1) 環境負荷項目の削減目標値と実績

2013 年度の実績は下記の通りです。

*二酸化炭素 排出量の負荷項目別の詳細は 別表 1 参照

負荷項目	2006～2010 年 (5 年間平均)		2012 年度	2013 年度
*二酸化炭素排出量総量 (kg-CO_2/年)	32,777 (基準値)	目標	0.20%	0.30%
			32,711	32,679
		実績	20.28%減	24.67%増
			26,128	40,864
コピー用紙使用量総量 (kg/年)	384 (基準値)	目標	0.20%	0.30%
			383	383
		実績	18.23%増	30.99%増
			454	503
廃棄物排出量総量 (kg/年)	1,482 (基準値)	目標	0.20%	0.30%
			1,479	1,478
		実績	50.81%増	23.75%減
			2,235	1,130
新聞再生廃棄量 (kg/年)	246 (基準値)	目標	0.10%	0.10%
			245	245
		実績	52.85%減	58.94%減
			116	101
ダンボール再生廃棄量 (kg/年)	213 (基準値)	目標	0.10%	0.10%
			213	213
		実績	62.91%増	116.43%増
			347	461
グリーン製品購入率(%)	79.64 (基準値)	目標	75.00%	75.00%
			-	-
		実績	0.60%増	9.71%減
			75.45	71.90
排水量	(データ収集)	参考	—	153m^3

【別表 1. 二酸化炭素排出量の負荷項目別の詳細】

負荷項目	2006～2010 年 (5 年間平均)		2012 年度	2013 年度
使用電力 kg-CO_2/年	18,960 (基準値)	増減	19.87%減	63.43%増
		Kg-CO_2	15,192	30,987
ガソリン kg-CO_2/年	13,817 (基準値)	増減	20.85%減	28.52%減
		Kg-CO_2	10,936	9,877
合計	32,777 (基準値)	増減	20.28%減	24.67%増
		Kg-CO_2	26,128	40,864

＊「使用電力の CO_2 排出係数は 2009 年東京電力実績の 0.384 を適用」

(2) 環境にプラスの影響を与える活動目標と実績　（環境配慮型製品の開発・販売）
2013 年度の実績は下記の通りです。

製品名	基準値		2012 年度	2013 年度
NetBreeze (Honsen.net)	142,000 (ｷﾛﾊﾟｹｯﾄ) (基準値)	目標	300% 増	375% 増
			570,000	675,000
		実績	1,082%増	1,136%増
			1,679,000	1,614,000

参考：
・上記(2)のキロパケット数は、内航船の総利用パケット数のうち E メールでの利用分のパケット数です。（当社調査による）
・A4 サイズ原稿 1 枚の平均バイト数は 50 キロバイト、1 パケットは 128 バイトですので、A4 サイズ原稿 1 枚を通信するのに利用されるパケット数は約 390 パケットとなります。
・2012 年度の実績 1,679,000 キロパケットを利用して送受信された A4 原稿の枚数は、
1, 679,000,000 ÷ 390 = 4,305,128 枚となります。
・A4 用紙の重量は 500 枚/2Kg ですので、
4,305,128 ÷ 500 x 2Kg = 17,220Kg （17.220t）となります。
・コピー用紙 1 t 当たりの CO2 排出量＝2,618Kg/CO2　（再成紙 DIP70%）　ですので、
17.220t x 2,618 = 45,081 Kg/CO2 の CO2 の排出を抑えたことになります。

7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取り組み内容
7.1 環境負荷に対する保全活動
2010 年度の新基準値に対する 2013 年度の保全活動の取り組み実績結果のまとめは下記のとおりです。
(1) 二酸化炭素排出量　**24.67%増**
電力は引っ越しにより 24.67%の増加となりましたが、敷地面積の拡大で面積が 550 ㎡から 900 ㎡と 1.63 倍となり、電力使用量も 1.63 倍の 80,570kWh に基準値を変更して 2013 年度を見れば 0.4%の増とほぼ目標値になります
ガソリンは、基準値に対し 28%減額になりました。これは、以前よく自動車で出張していた社員が、公共の交通機関を利用するようになった事が大きな要因です。
次年度では、ビルの改装工事の中で LED 照明に変更していく予定です。
今後も昼時間の消灯、18 時以降の電気の消灯等を継続してまいります。
(2) コピー用紙使用量　**30.99%増**
コピー用紙に関しては 30.99%増でした。前年度期末における売上増加(２０%増)に伴う営業関連書類（取扱説明書、カタログ、プレゼンテーションなど）の増加、また、展示会・記念パーティー等の広告要素などの特殊要因があります。
前期よりペーパーレス FAX の導入と DocuWorks の採用による見積書・納品請求書がペーパーレスされた事で、4,306 枚の削減になりました。
営業ツールとしてホームページの活用や CD の利用、グループウェアの運用によりより今後も現状を維持するよう心がけてまいります。
(3) 廃棄物排出量　**23.75%減**
前回自社ビル取得に伴い不用物の廃棄と文書の廃棄が行われそれ、引越前後でも大量の廃棄物が出、174.17%増加しましたが、今回はその甲斐あって２３.75%減少させる事ができました。

現在も、毎月のクリーン大作戦を行なって社内の整理整頓に努めていますが、今後も継続して行きたいと思っています。

(4) 新聞紙・ダンボール再生廃棄　**58.94%減　116.43%増**

2010 年基準値に対して新聞紙に関しては 58,94%の減少と大きく、これは梱包材としての再利用が推進された為です。但し段ボールは 116.43%の増加になってしまいました。
今期も是正処置を実施し、廃棄する場合も再利用業者への引渡し等を実施しています。
今後は、新たな目標値を掲げより現実的な削減目標を設定していきます。

(5) グリーン購入への取組　**9.71%減**

2010 年度基準値に対して 9.71%減少しました。これはエコ商品が以前より多種多様になった中、ゴム印や印鑑等の購入が多かったことにも起因します。
今後も常時 75%を維持できるように、購入先の見直しを含めて推進してまいります。

(6) 水使用量（排水量）**153m^3**

今年度はデータの収集のみ行い、153m^3 でした。

7.2 環境にプラスの影響を与える活動

(1) 船陸間インターネット通信システム「NetBreeze/本船ドットネット」の販売

2008 年を基準年としてバケット数で基準値 142,000 ｷﾛﾊﾟｹｯﾄに対して 2013 年度は 1,6714、000 ｷﾛﾊﾟｴｯﾄと 1,136%の増加でした。

また、前述のとおり、2013 年４月における本システムのバージョンアップに伴うシステム変更により定量的な活動結果の収集が不可能となったため、本活動は 2013 年９月をもって終了し、新たな「環境配慮型製品の開発・販売」を開始することとしました。本システムが継続する限り環境への貢献度は高く維持していくものと信じています。新システムにつきましては現在開発途上であり、完成次第目標を設定し、次の「環境にプラスの影響を与える活動」として活動を開始する予定です。

8. 環境関連法規等遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への順守状況は、年度上期および下期はじめにチェックリストで確認し、結果は次の通りです。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去 3 年間ありません。
外部からの苦情も過去 1 年間ありません。

内　　容	上期結果	下期結果
法律違反の有無	無	無
訴訟の有無	無	無

＊詳細は、環境関連法規等のチェック表による。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

今回から年度の期間が変更になり、H25.4 月-H26.3 月までの 2013 年度について再集計を行いました。
前回 25 期として行ったものに半年分がかぶさった形です。
ガソリンは、目標値を下回り順調ですが、電力は新社屋に来て初めて統計を取った関係もあり、目標値をへーベ数の割合で増額し結果オーバーしています。
新聞紙は、梱包材として完全に再利用が進んだ結果、目標値の半分以下でした。
コピー紙については、売り上げ増加に伴いカタログ・ﾌﾟﾚｾﾞﾝ資料・取扱説明書等の印刷が増え、今期は４月に展示会もあった関係で目標値を上回る結果となりましたが、結果利益確保に繋がっています。
問題は、年間を通して目標を大幅に上回った廃棄物排出量とダンボールの廃棄量ですが、毎期目標の約 2 倍となっていますが、廃棄物も産廃業者からリサイクル業者へ引き渡されている事を確認し、産廃量は多くても工コには貢献していたと思っています。
但し、今回は是正処置書を作成して目標設定の改定を行います。

今回は前年度から事務所移転に伴い床面積も倍近くなり、倉庫スペースや作業スペースを確保できた事で大幅な売上増加に貢献したことから、2014 年度以降で新体制での実績を積むことが大事だと考えます。2014 年度もデータ取得に努め、今後は自社のみならず地域へも貢献できるエコにつなげる活動していきます。

以上